

上野原縄文の森 だより



2004.1
vol.4



第5回特別企画展
“火山”と共に生きた人々
～火の母～ 鹿児島～
(2月8日まで開催)

コラム

テーマ 「ネコも草を食べる？」

私が筆戦で出水に引き上げしてきた頃、母がネコを拾ってきて飼いだした。名前は母がコリとつけた。その後何代か続いたが、名前は常にコリであった。何でコリなのかその理由は今となっては分からない。何代目かのコリが、庭で頭を横にかしげながら奥歯で雑草（イネ科だったと記憶している）の葉を噛み切って、咽をひくひくしながら飲み込んでいた。

暫くすると首を伸ばし、顔を地面につけるようにして胃の内容物をどかっと吐き出した。その中にコガネムシの羽があったのを見ていた。その甲冑が珍しい光景を見たという感じしか持たなかったが、今考えると人類もありとあらゆる植物や動物を食べていたに違いない。時には毒草を食べて命を落とすこともあったろうし、逆に気分が良くなったこともあったであろう。このような経験を経て、日常食べるもの、食べてはいけないもの（毒草や不快な味や匂いのするもの）、体の不調を回復させるもの（薬草）を識別して利用するようになったのであろう。

肉食の動物が植物の葉を食べて嘔吐を促進するのは、多分その成分が原因ではなく、植物が喉頭や食道等を刺激して嘔吐を起したのであろうと推測している。人でも強制的に嘔吐を起すためには、人差し指を喉に差し込む。このような行動が果たして親ネコの行動を見て学んだのか、自然の行動なのか生物行動学的には興味がある。

人の胎児は多くの哺乳類に比べて未熟で生まれる。その理由は人類が直立歩行をするようになったからである。直立すると内臓が下に落下するので、胎児を支えるために骨盤が漏斗状になる。そのため胎児の産道が狭くなり、早産しなければならなくなる。早産すると母親と少なくとも数年は共に暮らす。その間に言葉を覚え集団の規律を身につける。つまり文化の継承がおこなわれるのである。高崎山のサルと屋久島のサルとは言葉が違うという研究もある。コリの行動も親ネコから学んだのであろうか。親は人間がまともに生きていく最初の友である。その眼をしなければならぬ親の眼目になりつつある現代である。

のぞいてみよう！火山灰の姿

マイクロスコープや顕微鏡で火山灰の「ミク
ロの世界」を見ることができます。
火山灰の違いがわかりますよ。



上野原遺跡で見つかった
約9500前の集落跡。
年代の決め手となったのは、
桜島の火山灰でした。
桜島、開聞岳、霧島連山、硫黄島など、
鹿児島にはたくさんの火山があります。
今回の特別企画展では、
火山と共に生きた人々の歴史を考古学的
な視点から紹介しています。

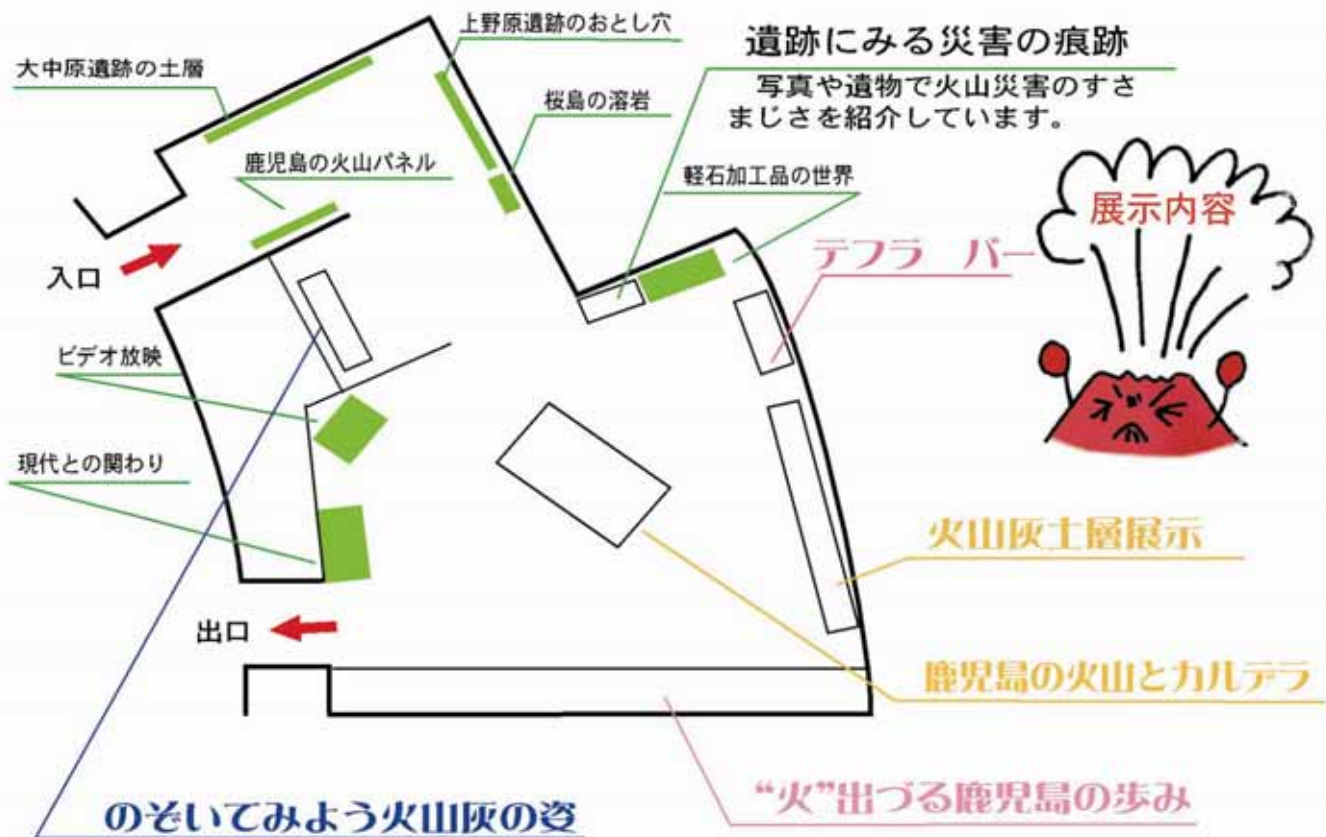


火山灰土層展示 / 鹿児島島の火山とカルデラ

立切遺跡（中種子町）、耳取遺跡（財部町）、ホケ
ノ頭遺跡（田代町）、横井竹ノ山遺跡（鹿児島市）の
火山灰土層を展示しているほか、立体模型で鹿児島
の火山やカルデラ（火山中央部にある直径数km以上の
大きな鍋状のくぼ地のこと）を紹介しています。

“火山”と共に 生きた人々

第6回特別企画展





“火”鹿 出づる 鹿児島島の歩み

約25000年前から現代に至る火山噴火の歴史と遺跡を豊富な写真や遺物と合わせて詳細に展示しています。

～ 火の国 鹿児島 ～

開催期間 2月8日(日)まで



テフラ バー



- ▲ 口之島
- ▲ 中之島
- ▲ 諏訪之瀬島

鹿児島で見られる地層を見よう。たくさんの火山灰の層があるよ！
火山灰の中には、科学的な手法や記録などから火山噴火の年代が確定されたものもあるんだ。この火山灰層を「鍵層」と呼び、遺跡や遺物の年代決定の基準になっているんだよ！



アカホヤ（約6300年前の鬼界カルデラの火山噴出物）や御池ボラ（約4200年前の霧島御池の火山噴出物）など、県内で見られる火山噴出物を自由に持ち帰ることができます！

次回の特別企画展は、**速報展「新発見！ かごしまの遺跡」(2月14日(土)～)**です。お楽しみに…

国分高校の生徒たちが園内ボランティア清掃

11月19日、県立国分高等学校の1年生約315名が、施設見学や体験学習の合間に、園内や周辺道路のゴミ拾い、復元集落内の除草などのボランティア清掃を行いました。

総合的な学習の時間を利用して、身近に貴重な遺跡があることを知るとともに、ボランティア活動を通して、地域の貴重な財産として守り伝えることの大切さを学ぶのを目的に行われたもので、今回で2回目となります。

国分高校のみなさんありがとうございました。



復元集落内の清掃

旅行社・地域特産品が当たる！ 広域観光スタンプラリー実施中

国分市が主催する、2市6町を巡るスタンプラリーです。

- 期 間/平成16年3月14日(日)まで
- ル-ル/「縄文の森」を必須とし、各市町のラリーポイント数カ所のうち、いずれか1カ所で購入付けの専用スタンプを押してください。
計5カ所以上のスタンプが抽選条件となります。
- 抽 選/平成16年3月14日 国分縄文の森駅伝会場(縄文の森祭りの広場)

大いににぎわった 縄文体験コーナー 「こくぶ産業フェア2003」に出展



火おこし体験

11月22日・23日の2日間、国分市で開催された「こくぶ産業フェア2003」に出展しました。初めての出展となった今回は、写真パネル展をはじめ、火おこしやアクセサリ作り、アングイン編みなどの縄文時代の生活体験ができるコーナーも設けました。多くの家族連れが当園のコーナーを訪れ、縄文体験は順番待ちができるほどの大盛況でした。

例年この時期に開催される「こくぶ産業フェア」は、国分市内の企業の製品展示をはじめ、農林水産物や地元特産品即売、ステージイベントなど様々な催しが行われ、多くの人でにぎわいます。



写真パネル展とどんぐりアート作り

森の逸品

上野原遺跡で出土した縄文時代早期(約7500年前)の、九州では最古の土偶で、国の重要文化財に指定されています。

土偶は、人のかたどって土で作られたもので、子孫繁栄や食物の豊作などを願ったり、ケガや病気の身代わりにしたと考えられています。

上野原遺跡から出土した土偶は、両腕と頭が簡単な三角形で表現され、胸部には乳房を表す突起もあるなど、女性の上半身を表現したのと思われます。また、胸部には、ろっ骨を表現したと考えられる細い線が見られます。

約7500年前、ここ上野原で生活していた人々が、いかに心豊かな生活を送っていたかを示すものとして注目されています。

② 土偶(どぐう)



青空シンポジウム

10月4日、県内外の考古学ファン約300人を集めて、森と共生した縄文時代の環境について考える「青空シンポジウム」を開催しました。

“遺跡と森”をテーマに、安田喜憲・国際日本文化研究センター教授や田川日出夫・縄文の森園長らパネリスト6人が、秋空の下、祭りの広場に設けられたテントで、縄文時代の植生や環境などについて熱い議論を繰り広げました。



シンポジウムに先立ち、宮崎緑・奄美パーク園長と山田昌久・東京都立大学助教授による“森を語る”と題した対談も開催しました。

山田助教授が縄文時代の木製品の分析から分かった当時の人々の「木」や「森」との関わりについて紹介すると、宮崎奄美パーク園長は「今、地球規模の環境問題に直面している私たちが、この危機を打開するためには、もう一度縄文の知恵に学ぶことが求められているのでは…」などと話していました。



【青空シンポジウム パネリスト】
 坂井 秀弥 先生
 (文化庁記念物課主任文化財調査官)
 安田 喜憲 先生
 (国際日本文化研究センター教授)
 高田 和徳 先生
 (岩手県一戸町御所野縄文博物館長)
 新東 晃一 先生
 (鹿児島県立埋蔵文化財センター調査課長)
 田川日出夫 上野原縄文の森園長
 【司 会】
 山田 昌久 先生
 (東京都立大学人文学部助教授)



ウォーキング in 上野原縄文の森

11月1日、第2回目となる「ウォーキング in 上野原縄文の森」を開催しました。

今回は、園内を巡る「縄文の森コース(約2.5km)」、上野原台地や台地の湧水地を巡る「上野原台地コース(約4.2km)」、上野原台地やその周辺を巡る「桜島コース(約7km)」の3コースに約230人が参加。参加者は、コースごとに設けられたスタンプポイントでスタンプを押しながら、園内でどんぐりや落ち葉などを拾ったり、園外のコスモス園や台地から見える桜島や霧島連山を眺めたりと、「秋の上野原」を満喫しながら歩きました。

ゴール後は、縄文レシピで作ったくん製卵や石蒸しイモをはじめ、どんぐり倶楽部や大学生のボランティアスタッフの協力で飲み物やぜんざいも振る舞われました。



開会式では、隼人町の踊りグループ「やんちゃ駒」のみなさんが踊りを披露しました。



森で音楽会を開こう



- ・土笛作り
- ・太鼓作り
- ・ウグイス笛作り
- ・横笛作り



土笛作り

「手作りの楽器を使って音を出してみる！」ことを目標に、この日はさまざまな楽器作りを体験しました。

午前中まずは「土笛」作りに挑戦。

粘土を直径8cm位の楕円形に整えたあと、鉛筆などを使って歌口（吹く時にくちびるを当てる穴）と音階をつくるための指孔（表面4・裏面2）をあけます。少し乾燥させてから、真ん中で2つに割り、2mm位の厚さ（※薄くするほど高い音になる）になるようにくり抜きます。最後に割ったところをつなぎ合わせ、穴を調整すれば出来上がりとなります。

参加者は、つなぎ合わせや穴・厚みの調整など「音を出す」のに悪戦苦闘していましたが、最後にはみんな音が出るようになりました。



太鼓作り

午後は、竹を使って太鼓やウグイス笛、横笛も作りました。

また、体験の合間に、加治木町の牧角さんの指導のもと、草笛にも挑戦しました。

第5回

9/20

木の実で遊ぶ1日



- ・どんぐりコマ作り
- ・どんぐりヤジロベエ作り
- ・どんぐり笛作り
- ・どんぐりアート



10/18

第6回



どんぐりアート作り

クヌギやコナラ、マテバシイ、アラカシ、クリなどいろんな種類の「どんぐり」がたわわに実る、秋の縄文の森。

この日は、縄文の森で集めたどんぐりを使って、昔ながらのおもちゃや飾り物を作りました。

「コマ」や「ヤジロベエ」など、お父さんやお母さんにとっては昔なつかしいおもちゃですが、初めて目にする子供たちも多かったようです。

秋晴れの空の下、昔を思い出しながら、子供たちに熱心に作り方を教えているお父さんやお母さんの姿があちらこちらで見られました。

午後からは、自分たちで園内を散策して集めた、どんぐりや小枝、木の葉など自然の素材を使った飾り物（どんぐりアート）作りも体験。それぞれ個性あふれるユニークな作品が出来上がりました。



園内での素材採集



ヤジロベエ作り

ジョイJOYじょうもん体験は、上野原縄文の森の四季を彩る大自然とふれあい、学び、楽しみながらの体験を通して、縄文の森に親しんでもらうとともに、古代への関心をもってもらうことを目的とした事業です。



どんぐりクッキー

今回は、どんぐりの粉に、ハチミツなど混ぜて現代風にアレンジ。

見た目は悪いですが、味はバツグンでした。



どんぐり粉作り



生地作り



第7回

11/15

連穴土坑を使ったくん製料理

トンネルでつながれた大小2つの穴の大きな穴の方で火をたくと、その煙が小さな穴の上に置いた食材をいびします。1時間位でくん製が出来上がります。この日は、卵や鮭、鶏のササミなどを調理しました。



鶏のササミのくん製



食材を置くところ



熱した石皿で焼くところ



麻袋にのせる石の準備

集石を使った石蒸し料理

麻袋に入れた食材(さつまいもや魚)の上に、十分に熱した石をのせて、土でおおいかぶします。あとは1時間位待つのみです。

森で縄文食三昧



約9500年前の縄文時代の上野原。

当時この地で暮らしていた人々は、どんな物を食べ、食べるためにどのように調理していたのでしょうか？

ここ上野原遺跡では、くん製料理の施設と思われる「連穴土坑」や蒸し料理の施設と思われる「集石」などの遺構がたくさん見つかっており、また、どんぐりなどを貯蔵していた穴も発見されています。

この日は、縄文時代の人々の暮らしぶりに思いをはせつつ、当時の調理法を再現し、どんぐりクッキーやくん製・石蒸し料理、縄文土器を使っての煮炊きなどの縄文食作りに挑戦しました。

食欲の秋、縄文食を満喫した参加者からは「食べるために毎食こういう作業をしていたなんて、縄文人も大変だったんですね。」という声が聞かれるなど、食材も豊富で簡単に手に入り、電化製品で手軽に調理できる生活に慣れている現代人にとって、いろいろなことを考えさせられる1日となったようです。



土器での煮炊き

上野原遺跡で発見された、約9500年前の縄文土器のレブリカを使って、あさりとワカメのスープを作りました。味付けは塩だけのシンプルなもの。



野草料理

どんぐり倶楽部(縄文の森支援友の会)の会員の指導のもと、ポーチュラカ(ハナスベリヒユ)を使った料理にも挑戦。ポーチュラカって食べられるんですよ。知っていましたか？

第10回 2月21日(土) 「縄文の生活具づくり」(壘穴住居作りなど)

■時間 10:00~15:00

■定員 小学生以上40名(小学生は保護者同伴)

■場所 縄文の森 体験学習館

■参加費 100円(保険料) ※詳しくはお問い合わせください。

上野原縄文の森
どんぐり倶楽部
通信 ②



▲▼9/27 だご作り



▲▼ 11/23 葛でバスケット作り

どんぐり倶楽部(上野原縄文の森支援友の会)では、会員の趣味や特技を活かしながら、月1回~2回の体験イベントを開催しています。

これまで、「ちきい(さおばかり)作り」、「鮎のくん製作りとアクセサリー作り」、「紙とんぼ作りと水てっぽう作り」、「月見の宴(昔ながらの十五夜行事体験)」、「だご作り」、「粘土細工作り」、「どんぐり染め」、「葛でバスケット作り」体験などを開催してきました。

体験を通して自然に親しみ、先人の知恵を学ぶ場として好評を得ています。

また、会員にとっても、持てる力を発揮する場であると共に、参加された方々の喜びの表情が会員の励みにもなっています。

これからも上野原縄文の森の活性化のお手伝いができればと考えています。

会長 植村春人



会員募集中!!

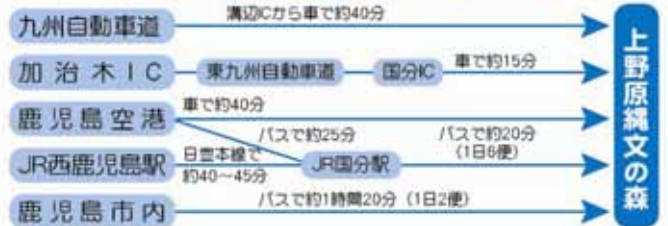
活動内容 ・縄文の森主催体験事業の指導補助
 ・体験メニューの開発 など
 年会費 1,000円
 申込先 どんぐり倶楽部事務局(縄文の森内)
 TEL 0995-48-5701

「どんぐり倶楽部」主催イベント

1月24日(土) 粘土で干支を作ろう
 2月28日(土) 竹馬作り
 3月20日(土) 昔あそび
 場所:上野原縄文の森 時間:10:00~12:00
 ※参加申し込みなど詳しくは、事務局(縄文の森内)
 TEL 0995-48-5701までお問い合わせください。

【開園時間】 午前9時~午後5時
 (7月1日~8月31日は午前9時~午後7時)
【休園日】 毎月第1・第3月曜日(休日の場合は翌日)
 (4月29日~5月5日、7月21日~8月31日は無休)
 12月30日~1月1日(年末年始)
【観覧料】(団体は20名以上) ※展示館内の展示室・シアターのみ有料
 ◆個人 小・中学生 150円 高・大学生 210円 大人 300円
 ◆団体 小・中学生 120円 高・大学生 160円 大人 240円
 (県内の学校が教育課程等に基づき学遊活動の一環として観覧するときは減免措置有り)

交通のご案内



【編集・発行】 財団法人鹿児島県文化振興財団 鹿児島県上野原縄文の森
 〒899-4314 鹿児島県国分市川内1376番地1 電話 (0995) 48-5701 FAX (0995) 48-5704
 URL <http://www.jomon-no-mori.jp> E-mail : uenohara@jomon-no-mori.jp